

機会がある
仙台近郊の被災地を訪れた。仙台市内からわずかに車で20分ぐらいのところにあるガレキの山、本来は

東日本大震災 広がる支援

▼1面参照



ワークキャンプを行った石巻の商店街にもランタンを届けた。

会員部 募金により

ランタン300個送る

大地震から2ヶ月。未だ。停電の時にろうそくで電気などのライフラインは心もとないこと、特に子が復旧していない地域、度々もたちの不安が大きいと。各所で大変喜ばる地域もあることから、東、大きな笑顔で受け取った。ランタンの灯りが、被災地において明日への希望に繋がることを願いつつ、被災者の方々に応援し続けていきたい。(会員部 戸坂昇子)



で遊び、楽しんでい。なるべくゴミを出さず、電力も最小限に抑え、環境に気を遣う1日も心がけた。第2回目以降も、形を変えながら、多くの人と協力しながら支援を続けたい。お預かりした募金額は137,544円となった。(山手センター 池田麻梨子)

茨城YMCAと協働

避難所支援 3/16〜4/5

つくば市では原発問題の影響を受けた、いわき市民館ではお年寄りから未熟児までが生活をし、子どもの遊ばスペースでは、走れない・駆けない・それに伴い夜眠れない・発散できる場がない・震災の不安・ストレスなど様々な要素があった。多くの子どもたちへのサポートと安全に配慮するため、東京YMCAからスタッフ・リーダーを派遣し、

てもらい、室内遊びから関係を作り外遊びなどの活動を提供することができた。活動は4月5日まで行われ、翌週には避難所も閉鎖された。期間中にかわったスタッフ・リーダーは延80人であり、内40人が東京YMCAから派遣された。今回の活動を通し、つくば市社会福祉協議会との関係も深まり現在も信頼され多くの場面でYMCAの話が出るようになった。(茨城YMCA 和田賢一)

山手センター チャリティデー

4月30日10〜14時、東日員、ワイズメンズクラブに本大震災の復興救援募金活動として、「第1回チャリティーデー」を実施した。YMCAによる応援メッセージコーナー、国際ホテル中で山手センターでは、専門学校学生によるコーヒーマーケット、立教大学学生による英語の部屋、キャンパスに通っている生徒たちによる英語の部屋、メンバーのお母様による絵本の読み聞かせなどが催され、訪れた子どもたちは最後まで遊び、楽しんでい。なるべくゴミを出さず、電力も最小限に抑え、環境に気を遣う1日も心がけた。第2回目以降も、形を変えながら、多くの人と協力しながら支援を続けたい。お預かりした募金額は137,544円となった。(山手センター 池田麻梨子)

南センター イベント

リーダーが企画・運営



南センターのボランティアリーダー

ワイズメンズクラブの取り組み

炊き出し・救援物資・募金活動

ワイズメンズクラブ国際協会・東日本区では、地震、津波発生後いち早く「東日本大震災・支援対策本部」を立ち上げ、被災者の支援活動に全力で取り組んでいます。YMCA同盟や東京YMCA等の都市YMCAに協力し、仙台YMCA、盛岡YMCA等の被災者支援活動を、現地のニーズに対応しタイムリーにサポートすることを心がけています。



3月16日には、仙台YMCAからの要請に基づき、毛布、食料等の緊急支援物資の提供を全国のワイズメンに呼びかけました。東京YMCAとの協働により、妙高高原ロッジを支援物資集積基地としましたが、数日間で段ボール約400箱の物資が集まりました。地元の信越妙高ワイズメンズクラブや近隣の方々による仕訳作業の後、3月20日を第1陣として新潟、郡山経由で、4回に亘り直接仙台YMCAに搬送しました。それ以降にも交通事情、宅配便事情が困難な中、東京ひがしワイズメンズクラブ等の協力により、そのときどきにおいて必要であるが現地では調達が困難なもの(軽トラック、電動自転車、発電機、高圧洗浄機、スコップ、ガスボンベ等)を随時運び込み、ワイズの機動力を役立てていただいています。

募金活動も各所属YMCAと協働あるいはワイズ単独で街頭募金を行う等、積極的に取り組んでおり、海外のワイズンからの献金を含め、5月9日現在で約900万円が東日本区に託されています。

その他にも、クラブ例会での食事を切り詰めてその費用相当を募金したり、被災地で炊き出しを行ったり、各地のワイズメンズクラブが工夫した支援活動に取り組んでいます。

被災者の支援は今後も息の長い取り組みが必要ですが、ワイズメンズクラブの目的はYMCAと地域社会への奉仕であり、まさにその真価を発揮すべきときです。心と力を合わせて支援活動を続けていきます。

(ワイズメンズクラブ東日本区書記/支援対策本部統括 田中 博之)

三菱商事株と協働で インターナショナルスクール

東京YMCAインターナショナルスクール(TYIS)の生徒たちは、被災地の子どもたちへ応援メッセージを書いた。このメッセージは、三菱商事株式会社から被災地に贈る絵本100冊に添えて届けられた。

この絵本『ダレ、ダレ、ダレ?』は、同社が社会貢献のために出版したもので、作者と翻訳者自らTYISを訪れ、日本語と英語の生徒たちへ、被災地の子どもたちへ応援メッセージを書いた。このメッセージは、三菱商事株式会社が被災地に贈る絵本100冊に添えて届けられた。

江東センター

江東ワイズと協働で

3月19日、今回の東北関東大震災に伴う津波の被災地、千葉県旭市飯海沿岸数百kmにわたって参加した。地震発生の際には現地にボランティアセンターが立ちあがったと刻んだ。



3月末、南三陸町に親戚がいて、現地を訪問した。4月上旬のクラブ例会で被災地の状況を報告。活動内容は瓦礫と土砂の撤去。現地に着くと、あまりの惨状に圧倒されながらも瓦礫の山に取りかかった。予想以上の重労働で作

大喜びだった。被災地でも喜ばれることだろう。TYISは、3月30日と4月5日にも同社の社員ボランティアと一緒に街頭募金活動を行っている。また同社からは、石巻インターナショナルと共同で幼稚園の保護者やセンター利用者へ、米、トイレ掃除用具、洗剤、生理用品等の提供を呼びかける。4月下旬、集まった救援物資を被災地に依頼し、現地最大の避難所へ送った。

被災地を支援するにあたっては、現地の情報に(東京江東ワイズメンズクラブ 菅原 創)

高石ともや コンサート

パン格拉デシユと東日本のために



浅草の稲荷神社で歌う 高石ともや

4月29日、「高石ともやパン格拉デシユ奨学金コンサート」が、日本キリスト教団浅草教会で行われ、約1000人の参加があった。このコンサートは、1997年に故江幡玲子先生(恩眷問題研究所)のプロジェクトにより、神田の東京YMCAチャペルでスタートし、今年で第15回目を迎えた。益金は毎年パングラデシユYMCAのために使われる。高石ともやは、被災者を励ましたいと、4月1日に浅草のかっぱ橋商店街と近くの稲荷神社内でも歌い、道行く人に募金を呼